

令和5年度 デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）事業事前評価集計 < 資料1 >

令和6年8月21日南丹市地域創生会議

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
1	1	1-1 間伐材出材奨励事業 (農山村振興課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●間伐面積、間伐材の搬出量の実績は安定して推移している。輸送経費の補助金支援が林業振興にとって最善策かどうか。 ●間伐実績については令和4年度に目標値を上回っており、森林保全につながっていると思う。間伐材の活用方法を工夫することにより企業誘致数が増えるのではないかと考える。 ●事業の実績がKPIにも表れていると思う。継続的に間伐を行うことにより、林業の雇用の維持だけでなく森林保全にもつながる有効な事業であると思う。また間伐材の有効な活用も地元企業との協力等により取組みを期待したい。 ●切り捨て間伐より進化しているので評価する。 ●搬出された木材が地元での消費に還元されるようにできないか。 ●木材の自給率向上に寄与する事業であった。 ●里山と産業が維持されていることを評価するが、地域の魅力につながる事業に発展できないものかと思う。
1	1	1-2 特用林産振興事業 (農山村振興課)	① 2名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●歴史文化のある農産物は地域特産物としての発信力に期待できる。需要がある中で、モデル園をしっかり定着させ、量産化を目指されたい。それが最終的なアウトプットになると思われる。 ●生産者増加の為には、安定した販路が必要。特産品とするための具体案が必要でないかと思う。 ●地域特産物として定着させるためには継続的な取組みが必要であるとともに生産量の増量と高付加価値化に向けた商品開発にも期待したい。 ●ブランド化に向けての第一歩として評価する。 ●現在は他の地域の方が産地として有名なので、PRにも努力が必要。 ●今後のブランド力強化が期待される。 ●地域内でも特産物としての認識が薄いように感じます、今後生産者と生産量の拡大に期待したい。 ●育った後(収穫できた後)を見据えた、特産物をどのように売り出していくのか等の研修へと、ステップアップすることも必要ではないか。
1	1	1-3 サテライトオフィス誘致事業者等支援事業 (商工観光課)	① 8名 ② 1名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●サテライトオフィス相談件数は伸長しており、「しごとづくり」、「働くひとをふやす」ことに寄与している。実施結果としての開設数によると、空き家対策でのサテライトオフィス運営という事業が地域に根付きかけている状況が見受けられる。オフィスでの事業実態が明らかでないので、それらの波及効果までは見えづらい。 ●コロナ禍以降、需要が増えており、空き家を活用した事業者が数字に表れている。 ●高齢化や人口減少のなかで地域の空き施設を活用した事業者が増えることが地域活性化にもつながる取組みもあり、今後とも継続した取組に期待したい。 ●一定の開設企業があり評価する。 ●税収や人材増加で有効な事業と思う。業種によるがサテライト店舗や窓口もあれば地域住民の利便性にもつながる。 ●5社が新たにオフィスを開設し、有効であったと考えるが、今後は事業を利用した事業者がどの程度定着し、雇用を創出したのか分析、検証が必要であると思う。 ●地域に根付いた企業となるよう、今後も事業者に対して支援をお願いしたい。 ●サテライトオフィスの開設により、地域雇用の拡大につながって欲しいと期待する。
1	1	1-4 商工振興助成事業（創業支援） (商工観光課)	① 3名 ② 6名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●新たな「しごとづくり」に繋がっている。起業を希望する者を支援し、仕事のバリエーション増加に繋がっている。一般的な起業セミナー等の企画はあると思うが、地域性を活かした創業を支援するものであり、その独自性が発揮されているかどうか。 ●起業をされる方にとっては心強い支援だと思いますが、企業誘致数があまり伸びていない。 ●創業支援は地域経済の活性化につながる支援でもあり、また学生も多い地域であることから今後ともさらなる起業者の増加にもつながる。 ●セミナー参加受講者がほぼ定員に達し評価する。 ●スタートダッシュに有効。定年後再スタートでなく、若い世代の支援に主にしてほしい。 ●参加者数が限定的であったのが残念である。
1	1	1-5 南丹市販路開拓支援事業 (商工観光課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●企業の成長支援を図ることにより、「しごとづくり」、「働く人をふやす」ことに繋がっている。企業販路開拓支援商談数は前年比増で一定数は確保している。起業間もない企業を対象に販路開拓・拡大を目指すものであるため、過去の実績から伸び悩みが見られるのか。 ●新規起業者に対しては有効であると思う。販路開拓支援商談件数が令和4年度に比べ増加しているため、展示会への積極的な参加により更なる増加につながるのではないかと思う。 ●新たな販路拡大のためには展示会・見本市等への出店が有効な手段であるため、事業者にとっては有効であったと評価できる。 ●新規取引件数が29件あり評価する。 ●起業後5年以内事業者向けで効率的な事業だと思う。起業後5年以上でも新商品や事業転換の事業者は含めても良いかも。 ●ビジネス機会を創出し、基本目標1に寄与する事業である。 ●一定数の商談、新規取引件数があり有効な事業であったと思う。 ●商談件数や取引件数も効果があり、どちらかといえば有効であったと判断する。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
1	1	1 - 6 南丹ブランド推進助成事業 (商工観光課)	① 1名 ② 6名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●イベントを活用した特産品のPR事業であるが、成果が曖昧。また、南丹ブランドとはどのような定義をして、対象事業を支援しているのか。 ●地域のイベントで市外からの観光客に対してのアピールは効率が良いと思う。 ●南丹ブランド商品の普及及び定着には今後とも継続して取り組んでいく必要があると思う。 ●基本目標が少なすぎると思う。 ●南丹ブランドとは何か、明確にして共有してから進めるべき。PRの場で次のアクションを起こさせる連携（市内イベントや興味のありそうな他商品をお知らせするなど）ができるとなお良い。 ●今後はWEBでの情報発信も行い、広く魅力が伝わる取り組みも求められる。 ●ブランドの定着に時間はかかるが、南丹ブランドとは何か。事業の効果が見えにくい。
1	1	1 - 7 森林サービス産業推進事業 (商工観光課)	① 3名 ② 3名 ③ 2名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●養生サービスを森林サービス産業と位置付けて、コンテンツ、サイト作成が実施された。独自性のある取組と見受けられる。新たな「しごとづくり」に寄与するものであり、関係人口の裾野を広げることにも期待する。 ●非常に面白い取り組みだと思う。新たな仕事づくりに有効な事業だと思う。 ●大学との連携により全国に先駆けた森林を使った養生サービスを展開、林野庁から準モデルに指定されるなど評価を得ており、事業としては評価できる。今後の普及に期待したい。 ●養生サービスで、国際医療大学（地元大学）と連携できたことを評価する。 ●そろそろ試行でなく本来の集客に向けた方が良いのでは。予算が大きいので様々な事業者に利益が還元されると良い。 ●参加者数等が資料からは不明であり、どの程度雇用創出に寄与したのか判断しかねる。 ●森林サービスをどのような方法で地域に広められ、どのような効果があったのかがわからない。
1	2	1 - 8 ものづくりのまち推進事業 (地域振興課)	① 1名 ② 6名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 1名	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の伝統産業等の更なる継続・発展と人材育成に向け、一般市民向けの広報機会として1年を通して、実績が積み重ねられている。市民の市内就業率の維持に寄与している。 ●子どもへの普及事業を更に積極的に行うことで、今後のKPIの伸びにつながっていくと思う。 ●「ものづくり」を体験できる事業や展示会等継続的に実施されており、一定の効果はあるものと思う。 ●限られたメンバーのみの事業であったと思われる。 ●小学校や地域行事に体験を提供していく意義深い。今年は新しい場所に出店するとのことで期待したい。 ●協会内で活動されるメンバーが限られているのは残念ではあるが、ものづくりのまちとして市内外にPRされている取組が実施されており有効であったと思う。 ●「目的」が「展示会を開催すること」になっているのでは。課題や苦労に記述されているように、まず目的をはっきりさせた方が良い。
1	2	1 - 9 小規模企業支援事業 (商工観光課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●小規模企業者の経営安定化に活用されている。 ●KPIは伸びていないが、評価調書に記載されているように、中小企業の経営安定のためには必須であると思う。 ●市内の10事業者に対し、利子補給金を交付しており、小規模企業者の経営の安定化と事業拡大に貢献していると思う。 ●行政ができる唯一の金融支援なので評価する。 ●商工会と市のダブルチェックを今後も続けて、よりよく予算を活用して欲しい。 ●小規模事業者の経営安定に必要である。対象事業者に十分な広報が行き届いているのか、事業の活用を勧めてほしい。
1	2	1 - 10 ものづくり産業雇用支援助成事業 (商工観光課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●地元雇用率の伸長に寄与している。市民の雇用促進により、市内定住者の増加に繋げる効果も期待できる。 ●KPIは伸びていないが、製造業の人材確保には有効であると思う。 ●誘致企業地元雇用率にも表れており、有効と判断する。継続して取組むことにより、若年層の定着促進に期待する。 ●10名の地元雇用に寄与しているため評価する。 ●市内雇用がより定着すると良い。 ●KGI・KPI推移では、市民の市内就職率が減少している。居住地で就労することは、定住へつながるものであることから、市民雇用の更なる促進に期待する。
1	2	1 - 11 商工振興助成事業（商店街活性化） (商工観光課)	① 2名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●商店街事業の維持・継続に寄与している。 ●KPIは伸びていないが、市の支援があることにより、商店街の様々なイベントが新たに企画されるのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIが存在しないため判断は難しいが、各種イベントの開催や歳末セールス事業等消費喚起につながっており、一定の評価はできる。 ●地元商店街での販売促進ができ評価する。 ●デジタル技術をより活用し、利用する人の層が増えるように、再検討のタイミングではないか。 ●市民が市内店舗を利用するきっかけにはなっているが、従来の情報発信だけではない工夫が必要だと思う。 ●スクラッチカード事業等を実施することにより、普段よりどれくらいの消費喚起につながったのかが見えてこない。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
2	1	2-1 空き家流動化対策事業 (地域振興課)	① 7名 ② 1名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増に寄与するとともに、空き家バンク登録件数、空き家活用件数が伸長している。空き家問題を地域課題として捉え、地域団体で掘り起こしや除去活動に参画してもらう仕組みが成立している。 ●空き家利用希望者は、移住相談件数からみても今後増加が予想されます。その空き家活用への補助事業は有効であると思う。 ●事業の成果がKPIにそのまま表れており、有効と判断する。空き家活用は地域社会にとって大きな課題でもあり、制度の周知と地域団体との協働により人口減少を抑制してほしい。 ●空き家掃除お助け事業の上限を現行20万円から最低50万円以上に上げるべき。 ●該当者が知るための予算づかいにするとより効果があるのではないか。 ●目的がはっきりしており、成果も明確で有効であったと思う。
2	1	2-2 定住促進サポートセンター運営事業 (地域振興課)	① 8名 ② 0名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●移住相談件数は累計数として目標値を達している。移住・定住は地域創生に重要な要素であり、そのための支援体制として機能的な窓口対応が求められる。一定の実施結果が見られており、さらに質の高いサポートセンターを目指されたい。 ●移住希望の増加が見込まれるなかで、定住につなげていくための有効な事業。結果KPIにも表れていると思う。 ●事業の成果がKPIにそのまま表れており、有効と判断する。移住相談件数や空き家バンク新規登録件数にも表れているとおり、サポートセンターの認知度も高まっており、定住促進には一定の効果がある事業と思う。 ●移住相談件数に対して空き家バンク物件新規登録件数の割合が1割弱では少なすぎる。 ●担当職員2人では負担が大きくなっているように思う（土日かならずどちらかが出勤せねばならないなど）予算を増やして職員を増やしたり、転送できる電話を設置したりしてはどうか。 ●常設のワンストップ窓口として有効に機能し評価したい。 ●目的がはっきりしており、成果・今後の方向性共に明確で有効であったと思う。
2	1	2-3 移住者起業支援事業 (地域振興課)	① 8名 ② 0名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増に寄与するとともに、空き家活用件数が伸長している。移住促進とともに、起業への支援策としてインセンティブが機能している。起業により、地域で新たな人、もの、金の流れが生まれていると考えられる。 ●移住者の企業にむけたハード面でのサポートは有効だと思います。転入者数などの数字にも表れている。 ●この事業を測れるKPIが存在しないため判断は難しいが、補助金交付件数7件からみれば一定の実績が出ており、継続的に取組むことで空き家の有効活用にもつながるものであり、評価できる。 ●改修費・整備費の3分の2の上限300万円では少なすぎるため最低でも500万円以上にすべき。 ●地域の新たな魅力創出につながり良い事業。 ●Iターンでの起業を支える、大変有効な支援であると思う。
2	1	2-4 おためし地方暮らし推進事業 (地域振興課)	① 2名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増に繋がるものである。移住促進を図るために広報活動が重要であり、関係者とタッグを組んで広域的にPRすることは有効的であると考える。ただ、しっかりと目標が共有され、継続性があるものなのか不明。 ●JR広告などの広報活動により転入者の今後の伸びが期待できるのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIが存在しないため判断は難しいが、JR車内およびJR構内での広告媒体を活用した広報活動としては一定の効果はあると思います。 ●広告媒体をJR西日本以外にも広めるために関東方面（JR東日本・私鉄など）などにも依頼するべき。 ●地域の新たな魅力創出につながる。広告出稿場所はターゲットを定めて要検討。
2	1	2-5 移住促進事業 (地域振興課)	① 8名 ② 0名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増に寄与するものであるとともに、空き家活用件数が伸長している。移住・定住の促進に向け、移住者の負担軽減を図るとともに、空き家バンクに登録した家屋を対象としていることから、空き家の流動化にも効果が見られる。 ●移住者起業支援事業と同様に、ハード面でのサポートは有効だと思います。転入者数などの数字にも表れている ●KPIでは転入者数が転出者数を若干上回っており、実績に表れており評価できる。補助金交付件数23件や移住者受け入れ（R2～R5計79世帯）についても実績として評価できる。 ●実施内容の改修費10分の10は良いが、地元業者を使用した場合は、上限を倍の360万円にすべき（地域経済に寄与する）。 ●地域の新たな魅力創出につながり良い事業だが、改修費は100%ではなくてもいいかも。 ●Iターン者は、移住するだけでなく、地域とのつながりを持っていることが評価できる。
2	1	2-6 定住促進地域イベント支援事業 (地域振興課)	① 3名 ② 6名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増に寄与し、空き家活用件数の増に繋がるもの定住促進に向け、地域団体が企画を実施することにより受入れ気運を高めるととも、移住希望者の参加機会増に寄与している。 ●地域イベントに参加することにより、地域の雰囲気がなんとなくわかるかと思う。そういういった体験をもらうことで、定住につながる有効な事業であると思う。 ●KPIでは転入者数が転出者数を若干上回っており、実績に表れており評価できる。補助金交付件数23件や移住者受け入れ（R2～R5計79世帯）についても実績として評価できる。 ●交付件数が増え色々な地域で体験できるようになるとより良いのでは。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
2	2	2-7 シティプロモーション推進事業 (映像作成業務) (秘書広報課)	① 2名 ② 4名 ③ 2名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数、転入者数の増に繋がるもの。南丹市の魅力発信事業として、広報媒体作成自体は意義のあるものだと考える。どのように市民、府民から評価されたのか、そもそも当年度に放映していないのなら、その成果は不明。 ●効果測定が難しい事業であると思うが、YouTubeへの放送予定は今後のKPIの伸びにつながるのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、地元の小学生や地域住民が映像の作成を通じて、南丹市の持つ価値を改めて認識する機会にもなるとともに南丹市のイメージや認知度の向上にも貢献できた事業だと思う。 ●YouTubeなどSNSを活用すればもっと効果がある。 ●YouTubeの再生回数が限定的であり、費用対効果が薄いと考える。
2	2	2-8 シティプロモーション推進事業 (映画活用事業委託) (商工観光課)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に寄与しており、転入者増に繋がるものである。市内撮影映画と連携し、市の自然や歴史文化を発信する機会を創出している。 ●効果測定が難しい事業であると思うが、南丹市のPRと映画のイベントがうまくかみ合えばファン獲得の為に有効な事業だと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、南丹市内で撮影された話題性のある映画と連携し映像の作成を通じて南丹市の持つ価値を改めて認識する機会にもなり、南丹市のイメージや認知度の向上にも貢献できた事業だと思う。 ●映画のロケ地としてもっとPRすべき。 ●人の流れは一定創出できたが、多額の予算が投じられているため、今回獲得した流入人口を継続して取り組む施策が求められる。 ●映画の上映会は多くの人々に喜んでもらえたのではないかと思う。野外上映は、ビッグな人が来ているにもかかわらず、かなり人が少なく盛り上がりに欠けた印象。暑い中のイベントには相当工夫が必要で、自己満足にならないようにしなければならない。またフードエリアも「祭」感は全く感じられなかった。フィルムコミッショングでどのようにまちを売り出していくのか。京丹波町の件も参考にされたら良いのではないか。
2	2	2-9 山陰本線南丹市広告宣伝事業 (地域振興課)	① 1名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 1名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に繋がるものである。広報範囲を広げること、新たな領域で展開することは重要であると考えるが、各々におけるねらいや目的達成のための最適化が検討されているか少し疑問を感じる。 ●効果測定が難しい事業であると思うが、広告掲載エリアの選定が適切だと思います。観光客増加で南丹市の情報をより多くの方に見てもらえる事業だと思う。 ●広域にPRできる取組みとして評価できる。山陰本線の利用促進という観点から、低コストを意識しつつ、より一層効果的な取組みに対し工夫は必要と考える。 ●SNSなどを活用した方が効果的。 ●対象と目的を絞り込みより具体的な発信が行われることを期待する。 ●観光入込客数やふるさと納税額が実際にどれくらいの増加になったのか、もう少し丁寧に成果を記述してほしい。
2	2	2-10 商工振興助成事業（商工会 イベント補助） (商工観光課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に繋がるものである。南丹市のファン獲得を目指すとともに、地域の祭り、生活文化の継承により地域の活性化を図ることにも寄与している。 ●関連性の高いKPIが伸びている。コロナ禍前の水準にまでは至っていないが、今後伸びていくことが期待できる。 ●地域と協力・連携した事業の実施は地域活性化に不可欠であり、継続的な取組みに期待する。 ●もっと積極的にイベントをすべき。 ●市民向けの誇り醸成内容と、市外向けの交流内容を、それぞれに考えて打ち出し方を変えるとより効果が出るよう思う。 ●花火大会やトライアスロンなど、安全に開催ができるよう、継続することが望ましい。もう少し市内の一体感が欲しい。
2	2	2-11 観光宣伝事業（その他宣伝 事業） (商工観光課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に繋がるものである。広報媒体の充実とフォトコンテストで関心度を高めている。 ●SNSを活用した取り組みで国内外への魅力発信が効果的に出来ていると思う。 ●事業の成果がKPIに表れており、有効と判断する。外国人観光客を含めた南丹市への観光誘致、宿泊者数に効果があったと考える。 ●PRがいまいち。 ●参加型のプロモーションイベントは一方通行でなく注目してもらえるので効果があると思う。その一方で、市としてのブランドビジョンを示していくことも考慮に入れては。（ブランドビジョンに即した写真が応募されたら、市として広報に使えるように撮影者に交渉するなど） ●写真が小さく、やるなら覗てもらいやすい工夫をするほうが良い。観光宣伝で細かに交付金事業があるが、一貫性があるかどうか等、検証する必要がある。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
2	2	2-1-2 観光宣伝事業（美山DMO補助） (商工観光課)	① 7名 ② 2名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増、観光宿泊者数の増に寄与している。美山DMOは観光を通じた関係人口の創出や移住者増に向け、持続可能なまちづくりを展開しており、他の地域のモデルにもなるものと評価も高い。将来に向け、自立性は追求されるべきであるが、補助金は効果を得ているものと考える。 ●KPIの伸びからも有効であると思う。南丹市有数の観光エリアである美山の観光事業を強化することにより、今後更なるKPIの伸びが期待できます。 ●事業の成果がKPIに表れており、有効と判断する。美山DMOの様々な取組みが観光振興に大いに繋がっている。外国人観光客を含めた南丹市への観光誘致に効果があったと考える。 ●インバウンドを意識してSNSを活用すれば良い。 ●今後も南丹市全体の観光を牽引して行ってほしい。 ●アフターコロナへの対応、インバウンドへの対応など、有効であった。
2	2	2-1-3 観光協会事業 (商工観光課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に寄与している。各々の地域性を発揮しつつも、各々の事業がタコツボ化しがちに感じられる。連携によりさらに効果を発揮されることに期待する。 ●KPIの伸びからも有効であると思う。観光客の増加を維持していくため、各観光協会の横のつながりが重要になってくるのではないか。 ●事業の成果がKPIに表れており、有効と判断する。各地域における積極的かつ多様な取組みは評価できるとともに各観光協会に一体化により南丹市全域での観光誘致に期待する。 ●観光協会一本化に向けての取組は評価できる。 ●個別の特色が出るのは良いが、ある程度統一感を持って、お客様に、同じ南丹市なんだと気づいてもらえるような連携を、今後も期待したい。 ●美山DMOに任せきりになってしまってはいけない。また、南丹市として、南丹市の観光として、今後どのような方向に進んでいくのかが、合併して長くなるが進展があるよう見えない。この問題は美山DMOだけで解決できるものではない。
2	2	2-1-4 観光文化資源活用推進事業 (商工観光課)	① 3名 ② 6名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に繋がるものである。地域資産を語れるガイド等の人材育成の取組に有効性が見られる。 ●KPIの伸びからも有効であると思う。観光客の増加を維持していくため、各観光協会の横のつながりが重要になってくるのではないか。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しく、期間は限定された事業となっており、内容を精査したうえで事業支援を検討し、対外的なアピールに繋げていただきたい。 ●南丹の川文化～由良川と大堰川の源流～をテーマにしたことが評価できる。 ●南丹市のブランドイメージを、学芸員やボランティアガイドにも浸透させて、それぞれの立場で発信していくような工夫ができると良い。
2	2	2-1-5 スポーツ拠点づくり推進事業 (スポーツ推進課)	① 6名 ② 3名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数、大会を通じた観光宿泊者数の増に繋がっている。自然環境を生かし、スポーツ大会開催地としての定評を得て、開催実績を重ねている。人を呼び込む大会として成立している。 ●スポーツイベントを通じて観光客の集客につながっていると思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しく、期間は限定された事業となっており、内容を精査したうえで事業支援を検討し、対外的なアピールに繋げていただきたい。 ●スポーツイベントの開催を評価する。 ●スタッフとして活躍することが誇りとなるような仕組みを作つていけないか。スポーツが間近で見られる良さなどもPRできれば。
2	2	2-1-6 歴史遺産振興事業 (社会教育課)	① 4名 ② 4名 ③ 0名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数の増に繋がるものである。文化財の修復や保存事業が現時点では、観光や社会教育等に活かされている効果は大きくはないように感じる。 ●他観光事業との連携で、観光客の誘客につなげられるのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、南丹市の文化財の修復や展示会等での公開により南丹市の魅力発信に繋げていることを評価する。 ●南丹市の貴重な文化財の修復を評価する。 ●できたら修復で、難しいものは複製品で、南丹市をPRできる遺産として、貸出など活躍してほしい。市民こそその価値を知らないことが多いので、修復をきっかけに教育することも考えては。 ●公開に至らなかったことから、基本目標2に寄与する結果が今年度実績としては十分な効果は得られなかつたと思う。 ●地域の優良文化財の保全は地域の魅力になり評価したい。 ●貴重な文化財は計画的に、修復・保存する必要があると思う。
2	2	2-1-7 観光イベント振興事業 (商工観光課)	① 5名 ② 4名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光イベント来場者数はコロナ禍を経て実績が回復しつつあり、観光入込客数増に寄与している。いずれも30回を超える市の特徴的なイベントであり、来場者も獲得できている。これらの地元地域への波及効果を期待したい。 ●KPIの伸びからも有効であったと思う。 ●事業の成果がKPIにそのまま表れており、有効と判断する。観光イベント来場者数でみればコロナ前に比べて大幅に減少しており、イベントを通じ、地域の団体・事業者とも連携して来場者数の増加による地元経済の活性化に期待する。 ●今後の取組（鮎祭り）に期待する。 ●市民向けの誇り醸成内容と、市外向けの交流内容を、それぞれに考えて打ち出し方を変えるとより効果が出るよう思う。 ●両イベントとも一定数の新たな人の流れが創出されており、基本目標2に寄与する事業と言える。 ●「地域のお祭り」というよりは、「南丹市を代表する祭り」と位置付けるならば、地域に頼るだけでなく、集客を増やす努力をしなければならないと思う。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
2	2	2-1-8 サブカルチャー等人材育成支援事業 (商工観光課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●転入者増、観光入込客数の増に繋がるものである。業務委託により専門的見識者からアドバイスを得て、どのような方向性が提示され、どのように活かされるのか、また、市がクリエイターをどのように発掘することができるのかという点がよく分からない。 ●南丹市出身クリエイターゆかりの地をPRすることにより、観光客の誘客につながっているのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。南丹市には大学も複数校あり、学生など若手クリエーターとの協業に期待する。 ●若手クリエイターの支援に期待する。
4	1	4-1 集落活性化支援事業 (地域振興課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものであり、地域活性化支援事業実施数は一定数を維持している。地域住民自らが地域づくりに取り組むものとして、意義あるものと考えられる。限界集落・準限界集落であるが故に、主体の確保も困難な場合があると思われるが、自発性はどの程度か。 ●KPIが伸びている訳ではないが、南丹市の各集落が活性化していくためには必要である。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。限界集落・準限界集落での地域活動活性化について多くの地域の再生事業への支援実績は評価できる。 ●限界集落の活性化は課題が多すぎる。 ●集落支援員の横のつながりを生かして、行政区を横断した、効率的な集落支援に、今後も期待したい。 ●集落支援員の配置は、地域の活性化に欠くことができないと考える。
4	1	4-2 生活路線バス等運行事業 (地域振興課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものであり、市バス利用者数の伸長に寄与している。地域交通施策として意義あるものと考える。住民のニーズと費用対効果の両面から、持続可能な運行体制を目指したい。 ●一定数の利用者があり、高齢化が進む中で有効な事業であると思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。公共交通の空白地を埋め、市民の交通手段確保の取組みとして評価する。 ●デマンドバスの周知は難しい。 ●どこにデマンドバスが通っているか知らない人が多く、個別に予約方法や値段を教えてあげると、驚き喜ばれることが多い。商店や寺院などが利用者に案内できるような広報ツールやチケットなどを用意しては。土日も使えるようにしてもらえるととてもありがたい。 ●交通弱者のために必要な事業であるが、利用されている方が限定されている。存在を知らないだけなのか、なぜ利用されていないのか分析が必要である。 ●サービスを利用される方が一定数おられるので、有効であると思う。 ●デマンドバスの存在を広く周知するとともに、将来にわたって公共交通の空白地が増加しないよう既存の公共交通利用促進を更に進める必要があると思う。
4	1	4-3 健康づくり推進事業 (健幸まちづくり課)	① 5名 ② 2名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものである。ICTサービスを活用し、健康づくりの推進を図ることができている。事業参加者数に対してはまだ普及活動の余地があると思われる。健康寿命の延伸により、医療費・介護給付制度の抑制という将来的な方向性も掲げられており、この考え方が浸透することが望まれる。 ●目標数値に近づけるため、高齢者の参加しやすい環境整備が必要でないかと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。短期的には成果が見えにくい事業といえるが、ICT活用により有効な事業展開が期待できる。今後の事業参加者数、アンバサダー養成による事業拡大に期待する。 ●健康無関心層に対する働きかけは限界がある。 ●デジタル技術をより活用して、ためたポイントを電子チケットとして市のサービスに利用できるなどができるれば、より活用が広まるように思う。 ●一般的に広く地域住民に広く認識されているとは思わないが、小・中学生の参加もあり広く参加者の拡大が期待でき目的とともに評価したい。 ●年々、それぞれの事業が広がりを見せているのではないかと感じている。
4	1	4-4 南丹市版地域包括ケアシステム推進事業 (地域医療室)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものである。高齢者、障がい者にとっての安心した暮らしを提供するものとして、健康づくりの推進に寄与する事業であると考えられる。 ●少子高齢化が進むなかで、誰もが安心して暮らせる社会づくりは欠かせないと思う。自分の地域に医療体制があると思うことで、安心感につながるのではないかと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。健康づくりの推進、安心・安全に暮らせるまちづくりに寄与するものとして、ICT導入による効率的ケア体制の構築に向け、関係機関等との連携や地域との関わりを実施した取組みは評価できる。 ●医師が健康に関するテーマでサロンや研修会を開催されることを期待する。 ●連絡会議を重ねるだけでなく、美山町以外にも活かしてけるように、システム作りに期待したい。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
4	1	4-5 キャッシュレス基盤整備計画策定事業 (商工観光課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものである。生活基盤づくりのひとつとして、キャッシュレス化導入に対する事前調査は必要。次なる施策導入の判断に活かせるかどうかがポイントと考える。 ●今後キャッシュレス化は欠かせないと思うが、デジタルが苦手な方への対応も考える必要があると思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、今後のキャッシュレス化についての課題認識に基づき一定の実績が出ており、今後に期待する。南丹市商工会とも連携しながら今後のキャッシュレス基盤整備の構築に期待する。 ●商工会商品券のデジタル化の予算化を早急にすべき。 ●構想としては市民の利便性が向上してとても良いが、基盤整備の段階で市外の事業者にお金が流れすぎないかが懸念事項。市内事業者にできるだけ利益が出るような整備を進めて欲しい。 ●策定された計画が着実に実行されることを期待します。
4	1	4-6 定住促進地域情報発信ツール整備事業 (地域振興課)	① 2名 ② 5名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものである。定住促進のための情報発信ツールを地域住民視点で取り組んでいることに対しては、移住受入れへの気運醸成と共生社会づくりに寄与するものと考えられる。成果物の活用状況は不明。 ●移住者と地元住民の交流機会も増え、定住につながる有効な事業だと思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。地域の魅力を発信するため地域団体はもとより既移住者と協力しての取組みには評価できる。 ●交付金の交付件数一件では少なすぎる。 ●基本目標2に作成した映像がどの程度寄与したかを測る数値がないため。 ●既移住者と行事が開催できたことは、効果的であったと感じる。
4	1	4-7 電子自治体推進事業 (情報課)	① 4名 ② 5名 ③ 0名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民の満足度向上に繋がるものである。市民の地域活動参加率伸長に寄与している。デジタル活用を推進するにあたって、地域で支援するお助け隊事業は共生社会づくりに寄与している。参加者が限定的で、事業効果もその傾向にあると思われる。 ●デジタル化が進むなかで、トラブルに合う可能性も高くなる。地域の公民館等での講習会は高齢者にとって参加しやすいと思う。そういう機会を増やすことで、トラブル防止につながると思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。「誰一人取り残さないデジタル社会の実現」を目指すため、「地域のデジタル弱者」を近くに住む「地域の方」が支える共生社会の仕組みづくりに寄与しており評価できる。 ●継続していただきたい。 ●目的と事業内容のつながりが今ひとつ。どのレベルのデジタルリテラシーを持った人向けなのかを明確にした事業作りが必要か。 ●高齢者向けのスマートフォン教室などはどうか。
4	2	4-8 小学校跡施設利活用推進事業 (総務課)	① 3名 ② 4名 ③ 1名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●住みやすいと感じる市民満足度向上に繋がるものである。市民の地域活動参加率伸長に寄与している。地域住民による施設の有効活用は一定は図られているものと思われる。本来の施設活用という観点から、持続性のある管理運営に課題があるように感じられる。 ●地域コミュニティーの場を維持していくことにより、住みやすいまちづくりにつながっている。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。小学校の跡地活用は簡単に解決できるものではないが、民間事業者と地域の連携により成功しているケースも見られる。効果を検証し、より有効な事業実施に向けて取り組まれることを期待する。 ●上手く民間に移譲できるか疑問。 ●目的に応じた思い切った整理が必要では。集まる場所なら他にもある。 ●地域にとって必要な場所ではあるが、今後の方向性を地域だけ、市だけで考えることのないよう、市民にとって何が最善であるか検討いただきたい。
4	2	4-9 市民協働推進事業 (地域振興課)	① 3名 ② 4名 ③ 2名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の地域活動参加率伸長に寄与している。地域課題の解決に向けて、地域活動の活発化を導いている。 ●市民活動の活動資金の補助があることで、活動範囲を広げることができる。より地域活性化に有効な活動ができるのではないかと思う。 ●地域改題解決のための資金活動に対する交付金として意義あるものと考える。団体が活動を継続して取組むことができるよう対応願いたい。 ●活動交付金期限3年間から5年間に変更すべき。 ●色々な支援策を有効活用できるように、今後もまちづくりデザインセンターに機能していってもらいたい。 ●有効であったのだろう。というのは、どのような活動に対し交付されたのか、この資料だけではわからない。

「地域創生戦略のKPI達成に有効であるか」を評価

評価：①有効であった ②どちらかといえば有効であった ③どちらともいえない ④どちらかといえば有効とはいえない ⑤有効とはいえない

基本目標	施策	事業No. 事業名 (担当課)	評価	評価の理由
4	2	4-1-0 なんたん中間支援センター運営事業 (地域振興課)	① 3名 ② 5名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の地域活動参加率伸長に寄与している。市民協働の観点から、相談体制を整え、市民活動の活性化を図っている。「南丹市まちづくりデザインセンター」でないと行えないことなのかは少し疑問に感じる。 ●相談窓口としての役割りは非常に大きい。まちづくり活動交付金を受けたいが、どのように進めればよいかわからない方もいると思う。中間支援センターがあることで、気軽に相談できる環境ができていると思う。 ●この事業を測れるKPIは存在しないため判断は難しいが、一定の実績が出ており、今後に期待する。多様化する地域課題に対する身近な相談窓口として、南丹市まちづくりデザインセンターの役割は大きく、来館者数、相談件数等の実績を評価する。 ●今後に期待する。
4	2	4-1-1 大学等連携推進事業 (地域振興課)	① 6名 ② 2名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●大学等との連携事業数において、着実に実績を重ねている。市内に在籍する学生との連携や交流事業は大いに進めるべきと考える。在住者、通学者の地域に対する満足度を上げることにより、交流、関係人口に繋げていくことができる。 ●地域住民と学生との交流が生まれることに加え、市外、府外からの学生が南丹市に興味を持つきっかけになり、基本目標2にも寄与しているのではないかと思う。 ●大学と地域、学生の連携2を行う本事業は、地域課題の解決と市民活動の活性化に繋がるという点で意義は大きい。 ●参加する学生を増やす努力が必要。 ●より学生が利用しやすい内容となるように工夫していく欲しい。 ●学生と地域の交流がどのように展開されたのか教えてほしい。学生に南丹市のまちづくりに参加してもらうことは、地域創生に大変効果があると思う。
4	3	4-1-2 小学校跡施設管理費 (地域振興課)	① 4名 ② 2名 ③ 2名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●市民が住みやすいと感じる満足度の向上に繋がるものである。持続性のある施設の有効活用の検討が必要 ●地元組織が管理することにより、特色を活かした管理ができる。基本目標4達成に有効な事業であると思う。 ●地域振興会などの地元組織が施設管理・運営を行い、地域住民のために小学校跡地を有効に活用していることから本事業は評価できる。こうした活用実績をもとに、より一層効果的な活用方法の検討や実施等に繋げていきたい。 ●維持管理費をどこまで維持できるか。 ●目的に応じた思い切った整理が必要では。集える場所なら他にもある。 ●それぞれの地元組織が工夫をした施設運営は行っているが、老朽化もあり長期的に施設維持を行う事は困難に思う。事業の継続には議論が必要である。 ●今後の施設の在り方についても、地域とともに協議を進めてほしい。
4	3	4-1-3 国定公園推進事業 (環境課)	① 5名 ② 3名 ③ 1名 ④ 0名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数、観光宿泊者数の増に寄与している。国定公園の玄関口となり、来訪者への対応窓口、情報発信元となり、地域資源を生かした観光客の受け入れ、交流の場を形成している。これらを関係者の連携で対応。相応の役割を發揮。 ●一定の来館者数があり、国定公園の保護、維持には必要な事業であると思う。 ●ビジターセンターへの来場者数や開催されるイベント等の活用状況は当センターの運用が地域貢献に大きく寄与していることを表している。魅力ある事業の展開により、さらなる利用者の増加に繋がることを期待する。 ●来館者数を増やし、物販品の品揃えに工夫が必要。 ●今後も南丹市全体の観光を牽引して行ってほしい。
4	3	4-1-4 森の京都推進事業 (商工観光課)	① 4名 ② 2名 ③ 2名 ④ 1名 ⑤ 0名	<ul style="list-style-type: none"> ●観光入込客数、観光宿泊者数の増に寄与しており、転入者数増に繋がるものである。多様な関係者が協働しながら観光地域づくりを展開する森のDMOの構成員として、広域的な観光事業等を推進する中で他自治体と連携できている。相応の役割を發揮。 ●基本目標4のほか基本目標2にも関連が高い事業で、周辺自治体と連携しながら、継続的な取り組みが必要だと思う。 ●南丹市単独規模では成しえない成果が期待できる京都府や府内自治体との連携による取組みは効果的な事業展開に繋がるものであり評価できる。 ●インバウンドに期待する。